

1. 本園の教育目標

お友だち、保護者、教諭、地域の方という、子どもたちが関わる人々、そして自分自身を大切に思うキリスト教の愛の精神を保育の源泉とし、決まった型に押し込めるのではなく、一人ひとりとじっくりと接すること。また、進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感、自分以外の人に共感する力を持ち、社会生活における望ましい習慣や態度を身につけ、子どもたち一人ひとりが持っている発達する力を引き出す援助をねらいとする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己評価および、教諭同士が相互に評価することによって、幼稚園教諭としての資質を高める。また、子どもたちへの安全への配慮、家庭との連携も深め、充実した保育を確保して行く。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
教諭の資質・指導能力、および保育内容の向上を図る。 ・ 保育の計画性について	・ 幼稚園教育要領、キリスト教保育誌を用いて、年、学期、月、週、日毎に保育案を作成し、指導も交えつつ協議を重ね、検討→実践→報告→反省という流れを持って、今、目の前にいる子どもたちに何を提供すべきかを考えながら行った。また、日々の報告会には園長も入り、実践の報告や振り返りの時に、指導も交えながら次回の計画の更なる練り直しをし、常により良いものとなる様、目指した。内容としては“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”と、更に「知・徳・体」に区分し、才児別に年間の目標をたて、それが達成できる様に細かく、ねらい（ねがい）を定めていった。 また、各行事(運動会や作品展、発表会等)を通して、保護者の方が子どもたちの成長を感じて頂くことが出来るように、と、行事の内容も綿密に話し合い、計画して来た。
・ 教員の研修について	・ 各教諭が大阪府私立幼稚園連盟、大阪市私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、各種民間業者の行う研修に参加するよう心掛けた。コロナ禍以降、多くの研修会がオンライン等に置き換えた形のものにはなっていたが、積極的に参加し、報告書も作成し、他の教員も回覧することにより情報、成果の共有化を図った。また、日々の振り返りの中で「今日の一コマ」とした“気づき”を、写真を通してディスカッションし、互いに研鑽を積む機会を設け、日頃の保育に活かせるよう促した。